

松菜

〔毛吹草^三〕肥前 鳳蓮草^{ホウレンサウ}ニ用之 薩摩 鳳連草^{ホウレンサウ}

〔倭訓菜^{中編二十四}〕まつな 松菜の義、葉似たり、海濱に生ず、葉杉の如く食ふべし、牡蠣菜なりといへり、

〔和漢三才圖會^{柔滑菜}〕松菜 俗稱^{正字}

按松菜近年大明僧將來希有之、二月下種、苗高五七寸、非蔓而延地、葉似雌松而柔、亦似杉菜、三四月淪和醋、或入羹中食、味淡甘脆美、秋開黃花五瓣、極小結子、如雞冠草子、黑色、

本草綱目葷草部有邪蒿者、云三四月生、苗葉似青蒿而細軟、色淺不臭、紋皆邪也、根葉皆可茹、煮熟和醬醋食、氣味辛温、作羹亦良者、此是松菜矣、

〔日本國風^五〕松菜

或書曰延寶年中大明の僧松菜を持來、此菜高さ五七寸ばかり、蔓なくして地をはふ、葉女松の如し、又杉菜にも似たり、二三月の比淪て酢に和し、或は羹に入て食す、其味甘しと云て、珍奇の菜也とす、^{海草にあらず、水}とす、^{涯の沙土に生ず、}古より羹に^略いれて食す、希物にあらず、總て艸木陰陽の氣雨露の恵を得て、彼方にも生じ、此方にも生じて同物有、^略とす、^略を不知、此本、外國より來りて珍奇を玩賞するは、人常に視を不貴、心を珍異に馳るの所致なるべし、

〔本朝世事談綺^二生植〕松菜

延寶のころ、大明の僧將來して希なりしが、頃年所々に見ゆ、三月五月の間淪て酢に和し、あるひは羹の中に入れてこれを食す、甚味淡甘して美なり、本綱に有邪蒿者、云三四月生、苗^下是松菜の事也、

地膚

〔新撰字鏡^草〕地膚^{爾波久佐} 地膚子^{阿加久佐}